

ヒグマによる人身事故発生状況

2024年度 1例目		
項目	内容	
発生日時	令和6年（2024年）5月5日 12時15分～13時00分頃	
発生場所及び付近状況	住所	浦河町上杵臼973-1 メナシュンベツ川付近
	付近の状況	<ul style="list-style-type: none"> 川の氾濫原の端に位置する樹林帯の中 林床には膝丈程度のササが繁茂し、目線の高さの視界は良好 本流からは距離があり、せせらぎの音は聞こえない
被害者情報	居住市町村	様似町在住
	年齢・性別 被害の状況	81歳 男性 頭部および胸部に咬傷、腕に爪による傷、首に気管に達する傷、前腕に深い傷
	鳴り物等の 携帯	<ul style="list-style-type: none"> クマ鈴やラジオ等は携帯していなかったが、山菜採り中は手持ちの鎌で立木を叩いて音を出していたほか、声を出して歩いていたが、山菜採りを終えて車に戻る際には音を出していなかった クマスプレーは持っていなかった
発生状況	被害者の行動	<ul style="list-style-type: none"> 山菜を採り終え、車に戻る途中、20-30m先に加害個体を発見 被害者の足元がふらついた際に加害個体が被害者に向かって走ってきたため、声を出して存在を知らせたが効果なく、逃げようとして転倒したところを襲われ、手持ちの鎌で反撃したものの効果がなかった
	発生時間帯	13時00分頃 晴れ、気温21.7℃、西北西の風・風速2.7m/s、降水量0.0mm（中杵臼のアメダステータ）
加害個体の特徴	行動形態	<ul style="list-style-type: none"> 被害者に気づき、走って接近し、被害者を攻撃 被害者が窪地にすり落ちたところで、元の場所に戻っていった
	痕跡	周辺で子グマと思われる足跡を確認（加害個体との関係性は不明）
	逃避行動等	被害者を探していた家族の叫び声に反応し、立ち去った
対応状況	加害個体への対応	なし
	住民への対応	<ul style="list-style-type: none"> 注意看板を設置 ハンター及び警察によるパトロールを実施
考察	発生要因	<ul style="list-style-type: none"> 執拗に攻撃していないため、捕食目的の行動とは考えにくい 被害者との突然の遭遇による防御的な攻撃、あるいは子グマや、シカなどの大きな食物を守るための攻撃だった可能性がある
	対策	<ul style="list-style-type: none"> 野外活動中は、クマ鈴などで常に音を出して人の存在を知らせる 滞在時間が短くとも、山林に入る際はクマ対策の装備を持参し、複数人で行動する
その他	近年、農村地域では過疎化が進み人間活動が減少しており、過去にヒグマがいないとされていた場所であっても、現在はヒグマが生息している可能性がある。野外活動の際は、たとえ長年通っている場所であっても、事前にヒグマの生息・出没状況の情報収集が必要。	

ヒグマによる人身事故発生状況

2024年度 2例目	
項目	内容
発生日時	令和6年(2024年)6月3日 15時00分頃
発生場所及び付近状況	住 所 雨竜町恵岱別 (恵岱別川右岸から流れ込む支流沢の上流部)
	付近の状況 <ul style="list-style-type: none"> ・恵岱別川右岸斜面の森林とその上に位置する水田の境界にある斜面崩壊地 ・植生はフキやオオイタドリ、ササで構成され、見通しは悪い ・斜面崩壊地の傾斜角度は60~70°で、急こう配
被害者情報	居住市町村 岩見沢市在住
	年齢・性別 被害の状況 51歳 男性 左胸に爪による深い裂傷、背中にまばらな擦過傷
	鳴り物等の 携帯 <ul style="list-style-type: none"> ・クマ鈴を携帯していたほか、調査班員が15分に1回程度、火薬銃を鳴らしていた ・クマスプレーと鉈を携帯していた
発生状況	被害者の行動 <ul style="list-style-type: none"> ・斜面崩壊地の調査のため、2名及び3名の計2班に分かれて行動 ・2名で行動していた被害者は、もう1名の班員に20~30m先行して調査を行っており、互いの姿は見えなかった ・調査を終えて林外で休憩中に、およそ10m離れた場所の藪がガサガサと動き、もう1名の班員が来たと考えて声をかけるも、反応なし ・休憩を終えて移動しようとした際、ヒグマ1頭がうなり声を上げながら藪から飛び出してきたため、大きな声を上げながら背中を向け走って逃げたところ、携帯していたクマスプレー等を使う間もなく、押し倒されて負傷
	発生時間帯 15時00分頃 晴れ、降水量0.0mm(雨竜のアメダスデータ)
加害個体の特徴	行動形態 藪から飛び出し、歯をむき出してうなり声を上げながら被害者へ突進し、押し倒して馬乗りになる
	痕跡 被害者と別行動をしていた班員が子グマと思われる鳴き声を聞いている
	逃避行動等 襲撃後、すぐに被害者から離れて走って山を下りていった
対応状況	加害個体への対応 <ul style="list-style-type: none"> ・箱わなを設置
	住民への対応 <ul style="list-style-type: none"> ・注意看板を設置 ・猟友会によるパトロールを実施 ・防災無線により注意喚起 ・学校及び各保護者へ注意喚起
考察	発生要因 <ul style="list-style-type: none"> ・加害個体が被害者を押し倒した後すぐに被害者から離れて逃げたことから、食害目的による積極的な攻撃や好奇心からの接近・攻撃だったとは考えにくく、事故発生時に被害現場である崩壊地で子グマの鳴き声が確認されていることから、子グマを守るための母グマの防御的な襲撃であったと考えられる ・2班に分かれ、さらに被害者が先行して調査を行っていた結果、被害者と他の調査班員で親子グマを囲い込んでしまったことで、藪の近くに居た被害者が襲われた可能性がある ・加害個体の突進に対し、背を向けて走って逃げた

	対策	<ul style="list-style-type: none"> • 見通しの悪い環境では単独行動しない • クマと遭遇した時は、背を向けて走らない • 呼びかけに対して反応がなかった時点でヒグマの存在を想定し、クマスプレーを準備する
その他	<ul style="list-style-type: none"> • 複数人が一緒に行動することで、襲撃時にすぐ助けに入る、あるいは助けを呼ぶことができるほか、会話することで人の存在を早めに知らせることができる • これまでに発生したクマによる人身事故では、致命傷になりやすい頭部を攻撃された例が多く、森林内で調査や作業をする際は、滑落時のケガ防止などと合わせてヘルメットの着用が推奨される 	